

# ありんこ保育園 森の教室

ありんこは、森の学校で見つけた「不思議」や「子どもの発見」「子どもの何気ない言葉」を持ち帰り、子どもたちと一緒に対話を時間を設けることから始めました。対話した内容は、写真と共に付箋に貼り、子どもたちも、保育者も保護者も見ることができるように掲示しています。写真や対話の記録を見て、子どもたち同士で会話を楽しんでいる様子もあります。



【永山 やまびこ】

先生：やまびこが聞こえる場所と、聞こえない場所がある。それはなぜだろう。

「みんなで声を合わせたから」  
「（〇〇ちゃんが住んでいる）ドイツまで行って戻ってきた」  
「向こうにやまびこさんがいる」

園に戻ってから、「やまびこ」についてみんなで振り返ってみました。

先生：「なぜ、やまびこが聞こえるの？」と子どもたちに問いました。

「やまびこさんにぶつかって返ってくるから」  
「みんなの声がロケットに乗ってきたから」  
「ヤッホーが短かったから」  
「みんなで声を合わせたから」

5歳児の活動「やまびこの絵を描いてみよう」

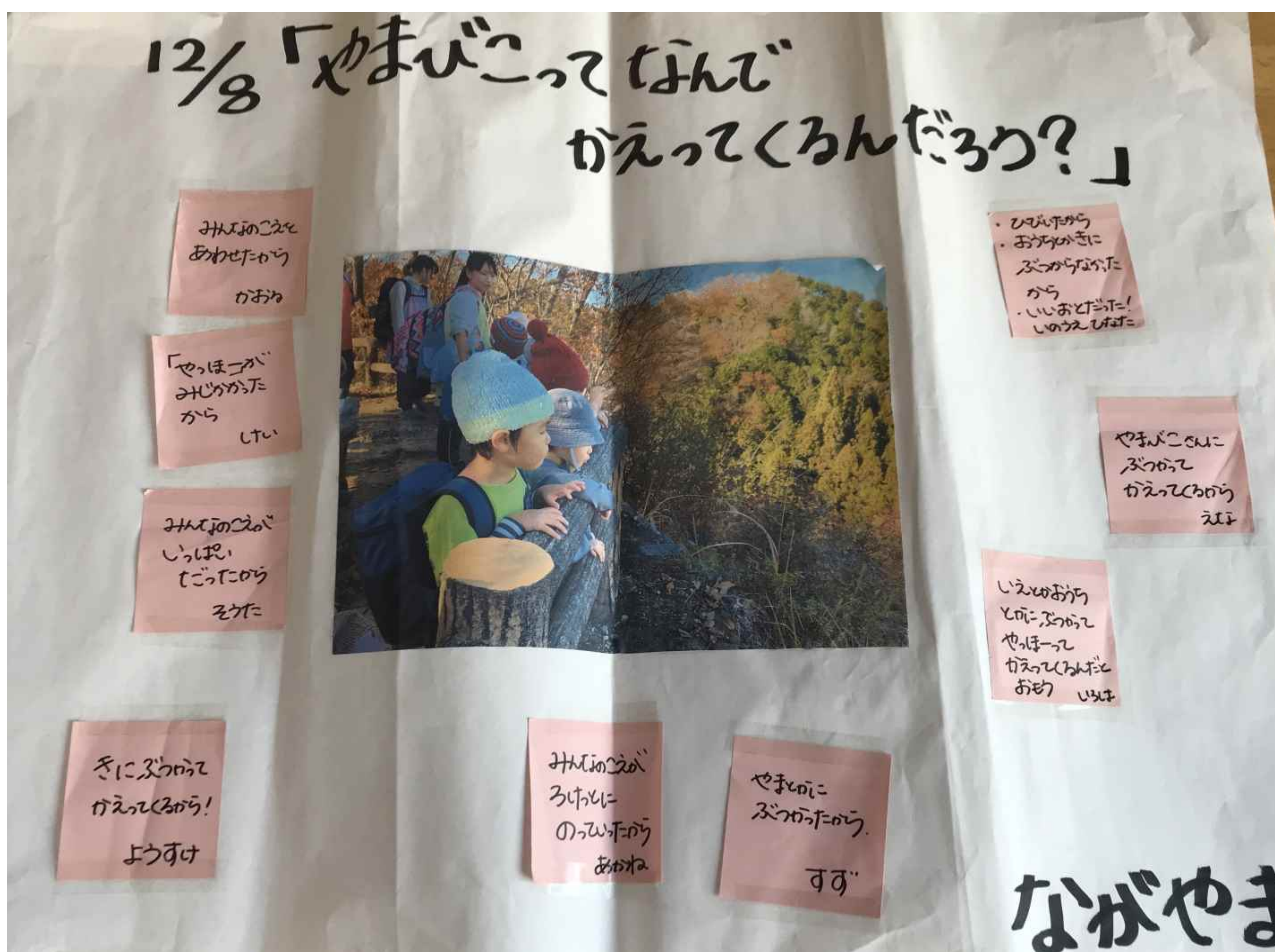
やまびこさん（山の向こうの人が返事をしてくれている絵）

やまびこには家族がいる

山が「ヤッホー！」って答えてくれている

やまびこさんっていう女の子が返事をしてくれている

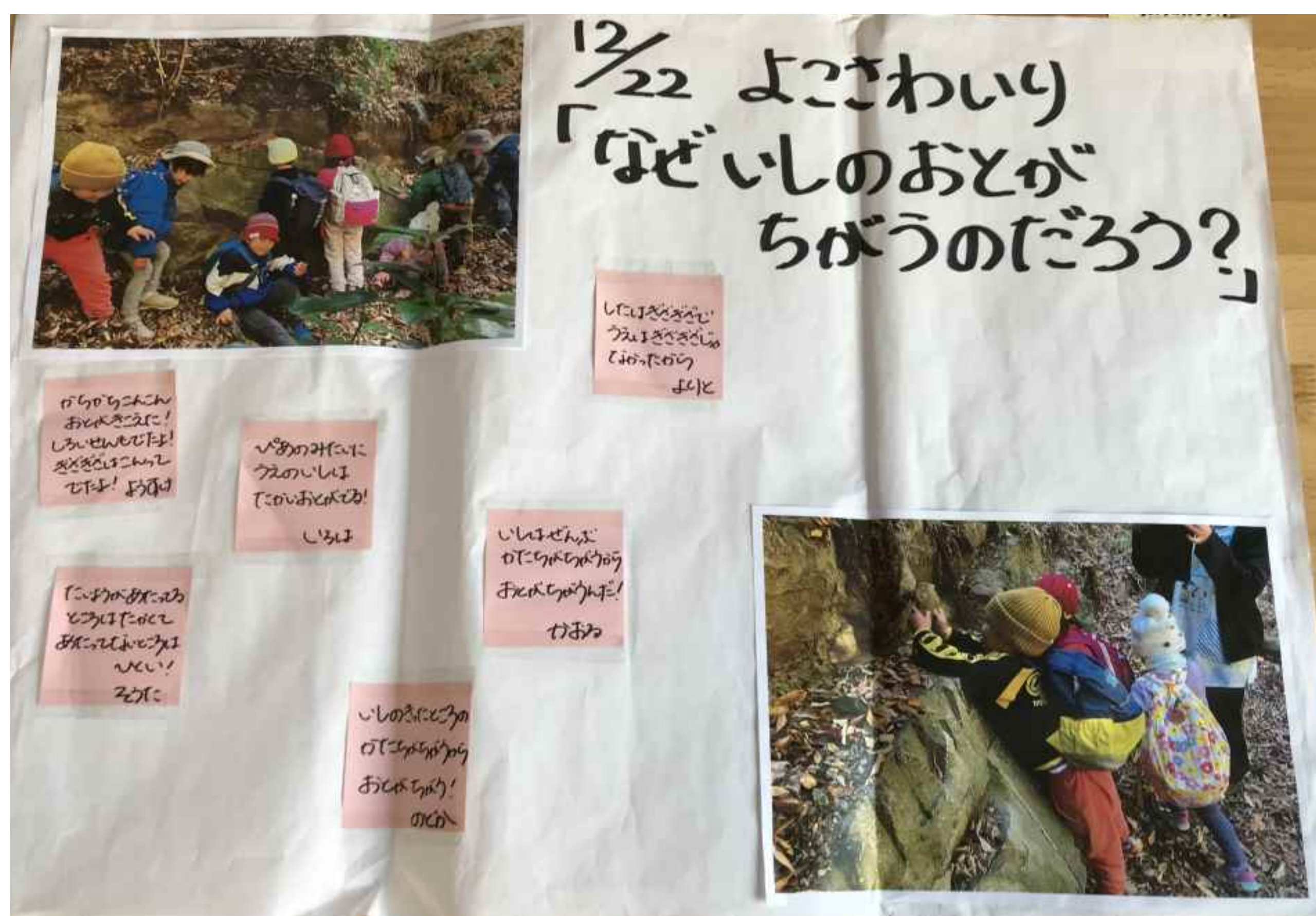
\*やまびこ同様に、森の学校で「不思議」を見つけた時には、園に戻ってから子どもたちと対話の時間を設けるようになりました。





## 【横沢入り 天竺山 石切り場】

先生：なぜ石の音が違うの？  
「上と下とで、音が違う」  
「下の石はギザギザ、上の石がギザギザじゃなかった」  
「太陽が当たっているところは音が出る」  
「ピアノみたいに上の石は高い音が出る」

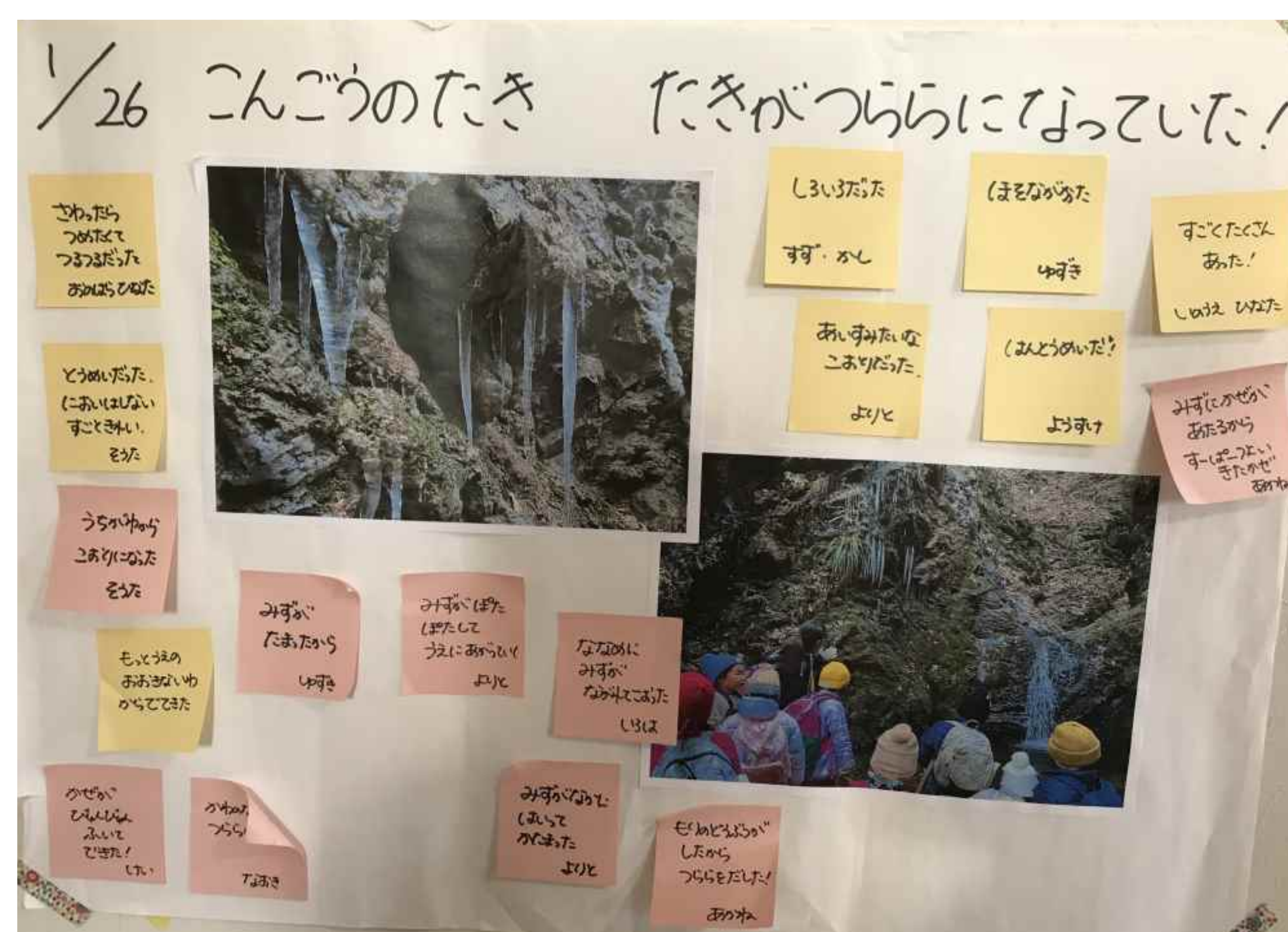


## 【小峰 金剛の滝 寒さとつらら】

先生：寒くとどうなるの？なぜ、冬は寒い？  
「ほっぺとはなが赤くなる」  
「葉っぱが下に落ちる」  
「つららができる」  
「いきが白くなる」  
「寒い」とことりが鳴いていた」  
「北風が来るから、冬将軍が来る」



金剛の滝のつららを見て  
「白色だった」  
「細長かった」



先生：なぜつらははできるの？  
「水がポタポタして、中から固まっていく」  
「下からできて、ポキッと折れた」



## 先生談

対話を通して、最初はどこか「正解」を探して子どもたちが答えているように感じていたが、今は自分の意見や考えなど、なんでも伝えても良い場所になってきていると感じています。そして、森の学校が日常の生活にもつながっていることを感じています。例えば、つららを園の軒下で見つけて観察したり、寒い日にはいつもいく公園で霜柱を探したりと、森での経験から園の周りの自然へとつなげて発見する姿も多く見られるようになってきています。